

会報

76号

レター

函館の歴史的風土を守る会会報

No.76 H16. 4. 30

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社内

電話(0138)51-4785

印刷所 (有)三和印刷 電話45-0845



函館の歴史的風土を守る会会長 清野恒夫

「第26回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」を開催しました。不況の声が聞こえるなか300名を越えるご出席をいただき、歴風会に対する温かいご理解とご支援に運営委員一同感謝しております。また、正副実行委員長の小笠原金悦様、今千尋様には極めて多忙なか、快くお引き受けいただきまして誠に有難うございました。

保存建築物1件、再生保存建築物2件、団体1件の歴風文化賞をさしあげ、歴史的建造物の保存・再生に努めていただいていることに謝意を表しました。

函館市都市景観条例に基づく「函館市西部地区歴史的町並み基金」には、パーティー益金より寄付をし、函館市より感謝状をいただきました。

2004年はペリー提督来航150年目の年になります。3月12日より横浜市において「開国150年記念・開港5都市（函館市・新潟市・横浜市・神戸市・長崎市）景観まちづくり会議」が開催され歴風会も参加いたしました。日本の近代文化発祥地としての誇りと開港都市遺産の有効活用について確認しました。

さらに今年より国策としての「景観緑三法」が制定され、町並み保存（景観）が法律によって支援されるようになりました。しかし、景観計画の策定にあたっては地域住民と行政団体で作成することになりますので歴風会の役割も重要になってきます。

まちづくりに関して会員の方々のご意見を運営委員会にお寄せいただきたいと思います。



第26回函館の町並みを美しくする新春チャリティー・パーティー

2004年3月19日（金）午後6：30～五島軒本店於

実行委員長挨拶



第26回函館の街並みを美しくする新春チャリティパーティには、多くの皆様にお集まりいただき、楽しく有意義な会となりましたことに心より御礼申し上げます。今回、実行委員長という大役を仰せつかり、微力ながらお手伝いできましたことを大変光栄に思っております。各運営委員の皆様におかれましては、開催に向けての準備、当日の運営等、本当にご苦労様でした。

さて、私は、昭和25年の創業以来、函館の町の発展と共に商売を続けてまいりました。創業時の函館の街並みを思うと、現在の街の様変わりぶりを改めて感じます。昭和37年、梁川町に社屋を建設した当時は、周囲は田畑と草地の広がる場所であり、将来の発展を信じながらも、周囲から随分と反対されたものです。まさに隔世の感がありますが、函館の発展なくして、私の商売は成り立ちませんでした。振り返ると、青函ト

実行委員長 小笠原 金 悦

ンネルができた時、私は、本州と地続きになることにわくわくしたものです。昨年、函館駅が近代的な、立派な駅舎になり、たいへん嬉しく思いました。近い将来開通するであろう新幹線が、今から楽しみでなりません。

このように、函館の町の経済的発展を追い求めてきた私と、「函館の歴史的風土を守る会」の組み合わせを不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれません。しかしながら、私は、商売人であることに誇りを感じていると同時に、函館市民であることに、大なる誇りを持っております。函館の町が好きだからこそ、私はこの地で創業以来、55年間頑張っております。

今回、会の皆様のご活躍に接する機会を得、あらためて函館の街並みの美しさと、それを守っていく難しさを感じました。街の文化的遺産を守ることと、経済的発展を求めることは、対立するものではありません。会の皆様を先頭に、皆で知恵を出し合い、函館がすばらしい町になることを願ってやみません。

副実行委員長挨拶



本日、第26回新春チャリティパーティがこのような盛会のうちに開催されました事を大変嬉しく存じます。又、表彰されました方々が本当に大変なご尽力をなさっている事にここに改めて敬意を表したいと存じます。

今回も沢山の方からチャリティのご協力を賜りました。本当にありがとうございました。

役員の方々は早くからこのご準備に奔走され、本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。

私はかねてよりこの歴風会の活動に深く敬服致しておりました。

函館に存在する歴史的文化遺産は、他地域には見られないほどの豊かさを誇っています。北の玄関口として幾代の昔より多くの歴史をかいくぐってきた建造物は、時代を静かに見つめ、すべてを温かく包み、そこに住まう私達をいつも変わらずに、見守り、育み、励まし、力づけてくれたように思います。

不況、不況と言われている昨今ですが、時代を取り巻く環境がどのように変化しようとも、歴史的建造物はいつも私達に明日への希望というエールを送り続けてくれているのではないのでしょうか。

副実行委員長 今 千 尋

歴史的遺産を保存し、末永く子々孫々に守り伝える事は、私達に課せられた大切な使命と 생각합니다。

函館を愛してやまない歴風会の会員の皆様が先ず、このように共に立ち、函館の歴史と文化を大切に守り、常に思いを募り続けていく事が、この会を益々発展させていく原動力となることでしょう。

この機会に、今日までこの会を立派に運営され、導いて下さった先輩会員の皆様にも心からの御礼を申し上げ、あわせて皆様のご健康ご繁栄をお祈り申し上げます。私のご挨拶と致します。

この度は本当に有難う御座いました。



平成15年度 歴風文化賞（第21回）

保存建築物 ニチロビルディング

函館市大手町5-10
ニチロあけぼの商会株式会社
代表取締役社長 岡田 要 様

この建物は昭和9年、鉄筋コンクリート造4階建事務所ビルとして建築された。

ニチロビルディングは北洋漁業の隆盛期に建てられた昭和初期のどっしりとした重厚感のある建築物である。意匠・デザイン面においても優れており、開口部に見られる縦長の窓やアーチ状の出入り口等、現在でも新鮮さが感じられる。北洋漁業が衰退した後も、4階の講堂は昭和30年代まで劇場として使用され、函館の文化面の発展に大きく貢献した。

函館の昭和初期における風格のある大規模な歴史的建築物として貴重な事務所建築である。



会の今日までの活動内容

- ・ 函館市町並み基金／文化財保存に寄付
- ・ ハリストス正教会の修復に寄付
- ・ 函館市景観条例制定に寄与
- ・ 歴史的文化財保全基金積立
- ・ 記念誌「函館のまちなみ」発刊
- ・ 歴史風土保存のための各種行事
- ・ 開港5都市景観会議の運営
- ・ 函館市都市景観賞受賞
- ・ 北海道町並みづくり功労者として道知事表彰
- ・ ふるさとづくり特別賞受賞
（北海道コミュニティ運動協会会長賞）

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である

再生保存建築物 長崎邸

函館市神山1-24-12 長崎 洋 様

この建物は昭和3年、木造平屋建農家住宅として建築された。

平成15年に神山地区の道路拡幅に伴い、土台から上部全体を30m後方に移動し再生された。建物は防寒のため開口部をサッシに変更されているが、全体は創建時の雰囲気や忠実に伝えている。室内の太いケヤキの大黒柱や頑丈な梁、屋久杉を用いた天井・欄間等、豪快で美しい造りとなっている。再生時には家業の手作り豆腐の工場「湧水庵」も隣接、新築された。

外観・内部共美しい姿に再生され、函館の農家住宅の特徴を伝える数少ない貴重な建物である。



再生保存建築物

太田邸・山田邸

函館市元町30-5 太田 誠一 様
山田 紘史 様

この建物は昭和初頭に、木造2階建専用住宅として建築された。

当初は函館の伝統的な上下和洋折衷様式を伝える姿であったが、何度かの改修が行われ、近年は創建時の姿を失っていた。平成15年に過去の資料に基づいて工事が行われ、創建時の美しい姿の伝統的な住宅を再生させた。

この住宅は左右半々の2所帯住宅であり、再生にあたっては所有者がお互いに相談・合意のもと、共同で建築した珍しいケースであり、今後の新しい試みとして注目される。

昭和初期の住宅の歴史を知る上で、貴重な建物である。



団体賞 亀田川をきれいにする市民の会

事務局 函館市富岡町2丁目8-12

会長 石井 満 様

函館市全域にわたり、余りにもゴミの不法投棄が多い事を憂い、住民自治の原点である「自分の住む町は自分で綺麗にしよう」という考えから、平成7年に発足された。

活動は子供からお年寄りまで、週2回の自主的なゴミ清掃の他に行政の呼びかけにこたえ、年4回、亀田川を中心とする清掃活動を会員全員で行っている。近年は活動の場を広げ、大森浜の清掃や河川のゴミ対策・犬の糞害対策の提案等も行っており、その行動が市民全体に浸透することを期待している。

住民が主体的に行動・参加し「函館の町と住民の心が美しくなる」ことを願って現在も活動を続けている。



函館市全域にわたり、余りにゴミの不法投棄が多く町的美観ばかりでなく市民の精神の荒廃を憂い、住民自治の原点である自分の住む町は自身が綺麗にしようと近隣の人達に呼びかけ、行動が市民全体に浸透する事を期待して発足した会である。

その後、お年寄り、近隣の小学生、地域外の方が参加して会を支えてくれている。

活動は、お年寄りや子供達が多いため週1ないし2回・一回30分程度自主的に近隣のゴミ清掃を行う事を基本に、行政などの呼びかけに年4回程全員に清掃行動を呼びかけ、参加している。

主体的に行動を計画し行政に参加を求め、市民に美しい住環境創出を行動で訴える。

近年は大森浜の市民清掃、陸のゴミを海に流すな、川の上流からのゴミを補足するネット設置の提案、不法投棄には河川管理者に告発を要請する、犬の糞害対策の提言や行動をするなど、現在に至っている。

(石井記)



原風景 立待岬

函館山の南端、津軽海峡に突き出た岬「立待岬」、昔は異国船を監視する重要な場所であった。

函館を代表する観光名所であり、荒々しい断崖の上に立つと良く晴れた日には、遠く下北半島や津軽の山並みを望むことができ、夏以降はイカ漁のいさり火で賑わう。

眼下には函館の市街地と、石川啄木がこよなく愛した大森浜が広がり、岬に通じる坂道には啄木一族の眠っている墓があり、訪れる人が後を絶たない。

数々の歌に歌われ、函館市民に親しまれている「立待岬」は函館の原風景であり、ここに宣言する。



原風景「立待岬」に思う

北海道アウトドアガイド 木村マサ子

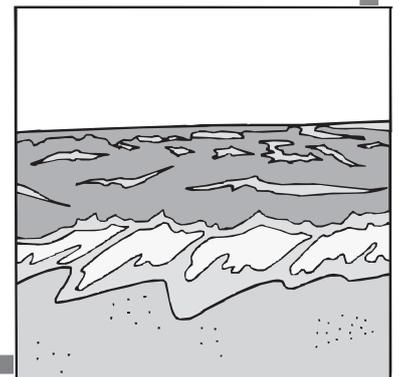
函館山の東端に位置する立待岬は、奇岩絶壁の景勝地で、演歌にも唄われ全国的に知られた観光地だ。しかし、昭和20年の終戦を迎えるまでは、函館要塞の一部として付近住民の立ち入りを厳しく制限していた要塞地帯だった。

現在、海拔30~40mの岬に立てば、左（太平洋側）には北海道最南端の汐首岬が、正面には下北半島の山々が、右（日本海側）には知内松前方面の大千軒岳の山々が見えるという大口ケーションが広がる。この風景を初めて見たペリー艦隊の乗組員は、スペインからアフリカ大陸を見渡すジブラルタル海峡と同じだと記録している。

この景色の荒々しい岩場も明治時代までは、五稜郭城の石垣を造る岩や函館要塞の砲台を造る岩を切り出す採石場だった。1854年（150年前）、ペリー艦隊は箱館来港記念にワシントンモニュメントに飾る石を2個持ち帰ったという歴史的な記録も残っている。

戦後、夏休み中は海水浴場として指定されていたため、沖のどの岩にも人が泳いで渡り腰掛けていて、絶壁から飛び込む人や潜る人を眺めていた。陸（オカ）の岩には小学生が腹ばいになって冷えた体を暖めていたり、家族連れが弁当を広げていたり、人で足の踏み場がないほどの賑わいを見せていた。しかし、私のように漁師の家に生まれ育った者にとって立待岬は生活の糧として岩ノリやワカメを採る漁場だった。今でも沖の磯舟からは、テンテン釣りの穴場の目印（ヤマを立てる）になっている。

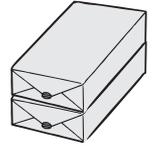
先週久しぶりに岬の海辺を一周してみた。ベコ岩とか障子岩とか天然プールと呼んで親しんだ大岩や絶壁が50年経った今もそのまま残っていた。立待岬の景色は変わらなかったが、子どもの頃遊んだ磯カニやゴタツペを一匹も見つけれず海の環境が変わったことを実感した。母の後を追って岩ノリを採りに行った頃や、石の下に手を入れてウニを採って食べた幼馴染みの顔を思い出して懐かしかった。





チャリティパーティ・オークションの商品のご提供

ありがとうございました



第26回函館の町並みを美しくする新春チャリティパーティ（2004.01.18）への商品のご提供に御礼申し上げます。

平野建業、函館山ロープウェイ、タランチーネ、近藤商会、有限会社おだじま水産、ナシオ、五稜郭タワー、サッポロウエシマコーヒー、フラワーデザイン花夢、五島軒、NHK函館支局、（順不同） 運営委員

チャリティパーティの運営と感想

運営委員 対馬 誠

3月19日、チャリティパーティを無事終了することができました。今年は景気の低迷等で参加者が例年より減るのではと心配していましたが、小笠原実行委員長、今副実行委員長の協力もあり、300名を超える盛大な表彰式、パーティとなりました。

歴風文化賞は今年度までは函館市を中心に、最近では近隣する七飯、上磯、大野町も含めての選考としていました。今年は函館市と3町1村が合併し更に広範囲な選考となるのではと運営委員で話し合われているところです。文化賞の候補については会員の皆様全員に歴風文化賞の推薦のはがきを郵送していますが、残念ながら去年は数通の推薦しかありませんでした。保存建築物、再生保存建築物の建築年代については明確な



基準はありませんがおよそ昭和10年以前で市の伝統的建築物・景観形成指定建築物に指定されていない建築物としています。文化賞の決定は会員全員の意見を集約したいと思っていますので、今のうちから来年度の候補について考えていただければありがたいと思っています。

パーティの方は、不況の影響か、各企業からのチャリティ商品の提供が非常に少なく苦勞しました。毎年、商品を無料で提供していただいている企業様には本当に感謝しております。パーティの企画運営にあたっては運営委員の高齢化等いろいろな問題もありますが、パーティの反省会では、委員全員前向きに頑張っていくことを確認しましたので、今年度も会員の皆様よろしく御願いたします。



第1回 ふるさと写真展 開催

運営委員 太田 孝雄

懸案であった、小学生・中学生による「ふるさと写真展」が2月18日から24日まで、JR函館駅2階の「イカすホール」で開催された。

応募期間が丁度、学校の冬休み、正月にかかり、心配されたが、関係者の協力もあり、合計150点以上と予想より多くの作品が集まった。

作品の審査は当初は写真専門家による審査も考慮されたが、運営委員全員による無記名の投票で決めることになった。従って、一人で2作品を受賞する場合も出た。しかし、結果として、非常に公平で平均的な評価が行われたと思われた。作品はフィルム写真、デジカメ写真、インスタントカメラ写真と多岐の種類であったが、どの作品も、小学生、中学生に相応しいとても瑞々しい、感性に溢れた作品が多く、ふるさとへの想いが率直に示されていた。観光都市函館のため、やはり、西部地区、元町界限などの観光名所の写真が多かったが、カメラアングルなど、大人と異なったものもあり、なかなか興味深かった。これらの作品を通

じて、自分たちのふるさとへの愛着と誇りが伝わって来る感じであった。また、中学生の作品でクリスマスツリーの華やかな風景との対比で裏側の寂れ町並みの風景を描き、西部地区の明暗を訴えていたとても印象的な作品もあった。

受賞表彰式は2月21日午後、展示会場で行われ、受賞者、父母などの関係者が多数集まった。初めての写真展であり、PR期間が短かったことなどから、当初は心配されたが、予想外に多くの優れた作品が集まり、会場も新しい函館駅の2階の便利な場所に位置することで、旅行者も含め、多くの方に観ていただくことが出来、幸いであった。小中学生の優れた感性に感嘆する声も聴かれた。また旅行者へは観光案内としても役立つように。

主催者として、これら若い人々のふるさとへの熱い思い、誇りを感じとることができ、このなかから、自分たちのふるさとの町並み、風土を守ろうとする人がきっと育っていくと確信し、この展示会を終えた。



受賞者たち



会場風景



表彰状を
受けとる



受賞表彰者を囲んで

特別報告

開港5都市景観まちづくり会議（平成16年3月12日～14日） 横浜大会の報告

運営委員 吉田 清美

横浜大会に出席したのは、歴風会より清野会長以下6名、函館市伝統的建造物群保存会、(社)函館国際観光コンベンション協会、函館市都市デザイン課より各1名宛、計9名が参加しました。

大会初日の3月12日は、開会式、各5都市紹介、講演「開港150年と横浜：原横浜商工会議所副会頭」（横浜情報文化センター情報ホール6・7F）が行われ、午後6時から、中区山下町ホテルニューグランド本館2Fレインボーホールルームでウェルカムパーティが催されました。ここでは、主催者挨拶に続き、田中宏横浜市長の挨拶、各都市代表の挨拶があり、函館からは会長が挨拶しました。横浜市に居住している、五代路子さんが横浜市ゲストとして、徳川恒孝日本郵船顧問、目黒征爾同顧問、武庫川大学つつみ都志さんらがお話しをされ、歌や楽器演奏を楽しみ、参加者同志の交流がありました。

2日目は、第1分科会、第2分科会、第3分科会に分かれ、各会場に分散しました。私は、第2分科会「わがまちのイベント」に出席しました。（プログラム参照）会場はYMMプレゼンテーションショールーム、午前10時から午後4時30分まで充実した内容でした。

第1部には、横浜FCジェネラルマネージャーの奥寺康彦氏の10分程だが印象に残る話があり、野毛大道芸実行委員会より大久保文香氏（20分位）、「元町仲通りフードフェア」の実状など、第2部 横浜元町の有名な「霧笛楼」で昼食を摂り、元町を散策、大道芸鑑賞後、第3部に入って、各都市の事例紹介になりました。私は10分位の与えられた時間に、「わがまちのイベント」と題して、五稜郭公園の桜、港まつり、赤レンガ倉庫群のクリスマスファンタジー、加えて「土方歳三コンテスト」「野外劇」「ワッショイはこだてコンテスト」、湯川の「湯の川温泉いさり火まつり」冬の「五稜星のゆめ」、加えて、近郊の「大沼」「湯川トラピスト」 「上磯のトラピスト」「松前の桜、城跡」など、名所を紹介しました。

発表後、長崎市田島氏、神戸市曹氏、新潟市本間氏

と共にパネラーとしてパネルディスカッションに参加、主に、各都市の港、食、スポーツ、音楽等について話し合い、午後4時半終了。午後6時30分から横浜港氷川丸を見学しながら、ナイトクルージングを楽しみ、夕食を摂りながら1時間30分の横浜港の夜を堪能しました。（写真は吉田清美さん・編集子）



第2分科会「わがまちのイベント」

－本日のプログラム－

【第一部 横浜のイベント】

10：00より 分科会の趣旨、イベントの全体的な紹介

「横浜F Cの活動とスポーツイベントの展開」

ゲスト：横浜F Cゼネラルマネージャー 奥寺 康彦

「野毛大道芸」

野毛大道芸実行委員会 大久保文香

「元町仲通りフードフェア」

元町仲通り会 鈴木 信晴

【第二部 昼食会とツアー】

11：00出発 みなとみらい駅よりMM線乗車

11：45ごろ 横浜元町「霧笛楼」にて昼食

（横浜市中区元町2丁目96番地 ☎045-681-2926）

～この間元町散策など～

13：45ごろ 大道芸鑑賞（みなとみらい21地区グランモール公園円形広場）

【第三部 開港都市の活力とイベント】

14：30より パネラー紹介及び各都市事例紹介

【函館市】

函館の歴史的風土を守る会

吉田 清美

【新潟市】

協同組合 新潟あきんど塾

本間 龍夫

【神戸市】

神戸南京町景観形成協議会

曹 英生

三宮中央通りまちづくり協議会

永田 耕一

【長崎市】

三ツ山町犬継地区まちづくり協議会

田島 登

パネルディスカッション

16：30ごろ 終了予定

《会場》みなとみらい21地区クイーンモール3F プレゼンテーションルーム



帆船日本丸舳先と港風景



－時代の先駆者－田尻聡子さんを偲ぶ会が、平成16年4月7日（水）午後6時から五島軒駅前店で催され、黙祷・献花の後、田尻聡子さんへの惜別のことは、思い出などを出席者で語り合いました。



写真の田尻さんは、白い花に囲まれ、にっこり笑顔に向けておられました。心からのご冥福をお祈り申し上げます。

都合で出席が叶わなかった、戸倉町13-4 吉田省三様のお悔やみ文の中から大変失礼ながら一部を抜粋してここに載せました。

また、ユネスコ協会副会長 本吉様は出席されましたが、ご事情で中途退席され、お悔やみの言葉を寄せて下さいました。併せて掲載し、皆さまにお知らせ致します。

なお自然保護協会に属し、現在は北海道アウトドアガイドの木村マサ子さんご所持のテープで、在りし日の田尻聡子さんの若々しいお声をきかせて頂きました。記してお礼を申し上げます。（きよのきみ）

田尻聡子さんとは、南北海道自然保護協会創立以来のお付き合いで、陰に陽に役員としての小生を励まし、函館山周遊自動車道路の反対運動を始め、湯浜町のクロマツ林の保護などの解決に共に苦労した仲間でした。

田尻聡子さんの北海道新聞への一通の投書から、北海道自然保護協会を動かし、函館植物研究会会長であった、亡くなられた宗像英雄氏を核に南北海道自然保護協会が発足したこと、函館の歴史的風土を守る会の発足に一役も、二役も果たされたことを思えば、函館市の市民運動の先駆けであり、その行動は、維新の人々と共に後世にその名を留められるべきと尊敬の念を禁じ得ません。

当時の函館市と北海道が、函館山周遊自動車道建設を断念するきっかけとなった、南北海道自然保護協会と函館市、北海道土木現業所、さらに北海道自然保護協会の四者が一堂に会し、意見を戦わせた会議に田尻聡子さんと二人で、且つての北海道拓殖銀行の頭取応接室に臨んだ日の事を今も昨日のことに思い出します。

そのような彼女の早すぎる逝去を耳にしたとき、もっと色々と教えて頂けば良かったと一人臍を食む思いで一日を過ごしました。

函館市戸倉町13-4 吉田 省三

思えば1973年分譲していた上湯川団地に家建てたのは、私の30代初めでした。三人の子供と夫の両親はすぐに近くの内科の患者となり、医院の受付で優しい温かなお声で語りかけてくれたのが田尻さんでした。

当時新聞に投稿された記事を話題にすさまじい人生体験を伺ったり、平和についてを熱く語られ、同じ町内に素晴らしい女性のいる事を嬉しく思いました。函館ユネスコ協会もその頃、田尻さんを中心に女性達が一番充実の活動であった事を後に知りました。病が進行されても尚且つ副会長としての立場を気丈に果たされていましたが、2000年に“待つ事久しい好機到来”と私に副会長を託して降りられました。眼力鋭い田尻さんもこの時は眼も曇りがちだった事と思います。中身も努力もない私ですが、彼女が終生願っていた「平和」をいつの日か戦争のない世界を願って多くの仲間と活動を続けたいと思っています。

函館ユネスコ協会副会長 本吉 美恵



岡田溪子さんと本吉美恵さん（右）

〈編集後記〉

ご寄稿の皆さま、ありがとうございました。おかげさまで76号はゆたかな内容になりました。写真も豊富ですのでお楽しみ下さい。

（写真 太 田）
（編集 きよの）